

「言葉の院外処方箋」

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

第 88 回

『「to do」の前に「to be」 ～ 懐を深くして 感動を与える ～』

2021年12月17日3回目のコロナワクチン接種（順天堂大学に於いて）を行った。その後、筆者が代表を務める第210回「南原繁研究会定例研究会（研究会代表のあいさつ）」に向かった（学士会館に於いて）。今回の箇所は『聞き書 南原繁回顧録』（東京大学出版会）の『追悼講演「小野塚先生と南原先生」（423-431 ページ）、「南原先生を師として」（423-459 ページ）、「南原先生の遺されたもの」（460-490 ページ）、「解説—南原繁百歳」（491-517 ページ）、「後記」（518-523 ページ）』であった。読書会の発表者は、高橋幸輝氏、自由発表者は、栗山馨氏「小野清一郎、団藤重光の国家観と南原繁」であった。さらに山口周三氏が持参された資料『南原繁 講演「現代をいかに生きるか」』を拝読した。

高橋幸輝氏の「高次の段階への発展」、「多様な国民的個性」は、まさに、「個性と多様性」であろう！「顔の作り」も勉強になった。「風貌を診て心まで診る」は、病理診断の基本である。栗山馨氏の「人格（形成）責任論」vs「行為責任」から、「安楽死」vs「尊厳死」の違いが鮮明に思い出されました。「不連続の連続性」の言葉も勉強になった。筆者は、発がん病理学者として若き日から発がん機構「不連続の連続性」を今は亡き恩師（戦後、南原繁が東大総長時代の東大医学部の学生）から学び、筆者は授業で時々使用している。山口周三氏の『「何かをなす」(to do)の前に「何であらねばならぬか」(to be)』は、教育の原点であろう！2003年、to be 出版を立ち上げ、『われ12世紀の新渡戸とならん』を発行したことが、人生の忘れ得ぬ思い出である。不思議な時の流れを痛感する日々である。

2021年12月18日WEB開催『第12回勝海舟記念下町（浅草）がん哲学外来シンポジウム』に参加した（画像1,2）。筆者は、講話『22世紀に向けてのがん哲学』の機会が与えられた。皆様のメッセージ、特別講演、講話は、大変勉強になった。来年は、『新渡戸稲造生誕160周年』を記念して、シンポジウム『勝海舟と新渡戸稲造の繋がり ～ 現代的意義 ～』は企画される予感がする。日本時間2021年12月19日（日）午前9時にZoomウェビナー講演『がん哲学外来 ～

患者をとりまく心のケア 2021 ～』をアメリカから依頼された。早朝、アメリカ在住のスタッフの方から「このたび先生とシェアの皆さんと ご一緒する機会をいただいたことで、改めて先生の本を読み直し、言葉の処方箋に触れ直す機会となりました。感謝しています。先生は、やっぱりこの一言だな～と思いました（画像3）。私は まだまだ力の抜けない雑種犬ですが、先生のようなチャウチャウ犬の佇まいを目標に、私らしく今日1日を過ごしたいと思います。」との心温まるユーモア溢れるメールを頂いた。大いに感動した。まさに、「脇を甘くして つけ入るすきを与え、懐を深くして 感動を与える」（画像4）の実践であろう！

住み慣れた街で 自分らしく勇気をもって生きる!!

第12回 勝海舟記念 下町(浅草) がん哲学 外来 シンポジウム

令和3年 12/18(土) 14:00~17:00 WEB開催

“がん”にぶつて “がん”では死にがらゐる 生きることの大きな意味を考ふる 浅草からのメッセージ

WEB開催!!

スカイツリーと芝田川を歩くこの街で、われ、浅草～芝田の「がん哲学」の波とならん

生きとしるを思い大切に

人の人生は 一人一人異なる。思いある人生の中で、自分自身が一番好きで生きていく人生を送りたい。そんな思いを「がん哲学」がサポートする。今年の勝海舟記念 下町(浅草)がん哲学シンポジウム2021は、この思いを「哲学」を用いて丁寧に語りかけていく。ことろを一つに集めたい。10年の歳月の中で、色々な人と出会い、学び、成長した。自分自身一人一人が生き生きと生きていく。そして、その中で、自分自身と向き合い、心の交流を続けている。同じ土壌で、同じように語り合える仲間がいることは、幸せのひとコマに思われます。いかに、この一コマに、生きていく。

14:00 オープニングパレード 富原富士子(勝海舟記念下町(浅草)がん哲学外来 主宰)

14:10 勝海舟記念下町(浅草)がん哲学外来Cafe 1年間の思い出

14:40 動画メッセージ 川田龍平氏、安達昌子先生、廣橋猛先生、戸谷剛先生、天野良平先生

15:10 特別講演 がんを治す 堀江重郎先生(順天堂大学大学院医学研究科泌尿器科学 主任教授)

15:40 音楽の時間 勝海舟記念下町(浅草)がん哲学外来テーマ曲 ほつとけ、わをん

16:00 講話：勝海舟からのメッセージ 富原富士子先生(あずま在宅医療クリニック 院長)、江田守利氏(池田第一記念王子がん哲学外来)

16:20 講話：22世紀に向けてのがん哲学 樋野興夫先生(順天堂大学名誉教授 がん哲学外来 主宰)

16:30 音楽の時間 クリスマスの夕べ ソプラノ音楽

17:00 閉会

参加費・申込み

無料

HAPサポート 使えます

【講師】 樋野興夫医師 (がん哲学外来 理事長)

【協力】 一般社団法人 がん哲学外来

がん哲学外来解説 日本語ウェビナー



乳がん・卵巣がん・子宮がん患者を日本語でサポートする「Japanese Sharei」は、12月18日（土）午後8時から、ウェビナー「がん哲学外来へ患者をとりまく心のケア2021」を開催する。

講師は、一般社団法人がん哲学外来理事長で、順天堂大学医学部病理・腫瘍学教授の樋野興夫（ひの・おきお）医師。写真。樋野氏は2008年、「がん哲学外来」を開設し、がんを不安を抱えた患者と家族を対話を通じて支援する個人面談を続けている。ウェビナーでは治療中の患者とサポートする「ケアギバー」から寄せられた不安や質問に答

本紙11月27日号で報じた「在日米大使館のビザ特別措置、眞子さん来米時期と重なる」記事で「今回の期間限定特別緩和措置は、日本の米大使館のみで実施」とあるのは「日本を含む40か国のビザ・ウェイバリー（ビザなしで90日間米国に渡航可能）の条約を米国と結んだ国で実施」の誤りでした。訂正します。

（本紙編集部）

祭で2エンイ

